



【世界の今を知る】

ダムに沈んだ村で考えたこと ～政策提言の意味

▲30周年記念イベントでの集合写真

▼ 目次【VOL.150】

- 2-3 【世界の今を知る】ダムに沈んだ村で考えたこと～政策提言の意味
- 4-5 FUNN加盟団体活動レポート
- 6 FUNN活動レポート
- 7 NGO相談員報告・イベント情報

表紙はダムの開発によって沈んだ村の写真です。開発によってこのようなことが起きている現状と闘うために活動しているNGOが存在します。今月号はFUNNの設立当初から関わりのあるアジア開発銀行福岡NGOフォーラム副代表の土井利幸さんに、現在されている活動と政策提言活動の意味について執筆いただきました。

土井さんの記事は次のページから **▶▶▶**

FUNN設立の頃のエピソード

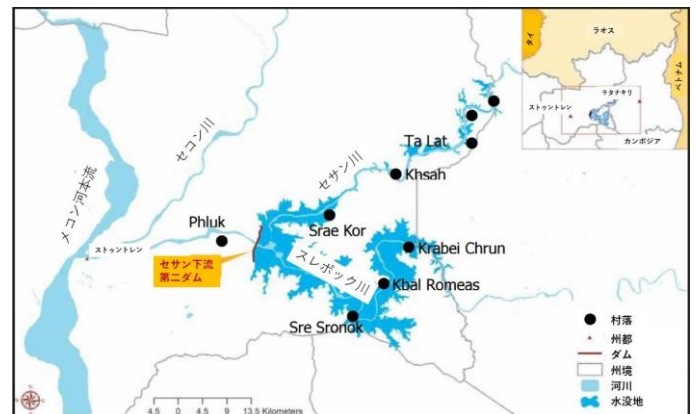
ぼくは今、タイのバンコクに住んでいますが、かつて、FUNNの加盟団体「アジア開発銀行福岡NGOフォーラム」(FNA)の設立に加わりました。アジア開発銀行(ADB)とは、日本政府が多額を出資し、アジア太平洋地域でダムや道路などの巨大大業に開発資金を出す国際機関です。1997年5月、ADBが福岡で年次総会を開くことになりました。ぼくは、総会にアジア各国のNGOが参加して、ADBで発言力を持つ日本政府に、「ADBの環境政策を強化せよ」といった政策提言をすると知りました。「政策提言」ということばが聞こえはじめてきた頃のことです。「じゃあ、福岡に来るNGOの宿泊の手配とか手伝いながら、政策提言って何なのか学んじゃえ」というノリで、友人たちと前年にFNAを立ちあげたのです。

さっそく下見で1996年、ADBマニラ総会に参加を申請したら、日本政府に「FNAなんて聞いたこともない」と不許可にされました。これを問題視した社民党の議員が国会で取上げてくれて、日本政府も福岡総会ではNGOの参加を最大限認めることになりました。それでFUNNのみなさんにもADB総会に参加してもらえたのです。実は1993年のFUNN結成の理由に、ADB総会への取組みもあがっていました。また、FNAは環境省系の助成金で、総会期間限定でしたが、事務所をもつことができ、その体験がFUNNのあるNGO共同事務所「びおとーぷ」のアイデアにつながりました。

現地で見た巨大開発の被害

ADB福岡総会后、ぼくは住まいをタイに移し、東京にあるNGOメコン・ウォッチのスタッフとして、巨大開発の被害とたたかう地元住民を支える活動をはじめました。これまで、火力発電所や污水处理場の建設、道路や港湾の整備がもたらす被害を目のあたりにしましたが、今はカンボジアの東北部でメコン河の支流に建設された「セサン下流第二」というダムの問題を追いかけています(地図参照)。

セサン下流第二ダムは2017年に完成しました。建設と運転で川の魚の量が減り、先住民族など村人が5,000人も立退きをさせられました。広大な貯水池から発生するメタンガスが気候変動を悪化させると言う研究者もいます。以前ほど魚が取れなくなって、村人の生活は苦しくなりました。移転した人たちからは「補償金が足りない」と不満が聞こえてきます。ダムの周辺では、今でも立退きを拒んだ100世帯ほどの家族が暮らしています。実際の被害がどのくらいなのか見当もつきません。しかし、なんとかすることが、ぼくの活動です。



▲セサン下流第二ダム関連地図

セサン下流第二ダムは、中国政府が進める「一帯一路構想」の一部です。ところが、資金の出どころをたどると、中国企業や銀行だけでなく、ヨーロッパの金融機関や世界銀行（世銀）からも資金が流れていることが分かりました。そこで、被害住民は世銀に救済を訴えました。昨年（2023年）、世銀のチームが現地を調査し、今年の6月に報告書が出る予定です。これをきっかけに、中国政府や企業も問題解決に協力してくれることを願っています。

最近の政策提言活動の難しさ

セサン下流第二ダムを追いかけることで、最近の開発資金の流れが分かるようになりました。ADBが福岡で総会を開いた頃と比べ、まず、中国やベトナムなど新興国や民間企業からの資金が増えました。ところが、新興国はNGOや住民との対話にはうしろ向きです。また、民間企業は「企業秘密」をたてに情報を公開してくれないことがあります。いろんなところから資金が流れこむので、ADBや世銀などの関与をつきとめるのがたいへんです。それから、開発資金を受ける国々の政府が、NGOや住民への取締りを強めているのも最近の傾向です。NGOの政策提言活動が難しくなっていると言えます。

もちろんNGOもアップデートしています。ADB福岡総会にやって来たアジアのNGOネットワーク「ADB・NGOフォーラム」は、加盟団体が大幅に増え、活動対象もADBだけでなく、最近では2015年に発足したアジア・インフラ投資銀行（AIIB）への政策提言も活発になっています。話しあうテーマも、気候変動・ジェンダー・障害・生物多様性などに広がり、ぼくはADB・NGOフォーラムの会合にできるだけ参加して、自分の活動を多様な視点から振り返るようにしています。

水没した村で考えた政策提言の意味

数か月前、ぼくはセサン下流第二ダムで水没した村をひさしぶりに訪ねました。貯水池には白骨を突き立てたような立枯れの木が並び、水面からは主（あるじ）を失くした家が錆びた屋根をのぞかせていました。この貯水池のほとりで、今でも立退きを拒んだ村人が生活をつづけています。貯水を逃れてやってきた頃の仮小屋はなくなり、堂々とした住まいを自力で建てなおし、太陽光パネルまで取りつけていました。

「ここで暮らす」ことを政府や企業に認めさせようとしているのです。村人の話を聞くにつけ、ぼくはアジアに生きる人たちのしづとさに触れ、「巨大開発の最大の被害は、生きる力を奪われ、心を萎えさせられることだ」と感じとりました。

ぼくの活動が問題を解決するなどとは、ゆめゆめ勘違いすまい。ぼくのやっていることは、人間が本来持っている、生きる力を最大限発揮するための露払いなのだ。そう、自分に言いかけました。【筆者：土井利幸（アジア開発銀行福岡NGOフォーラム（FNA）副代表）】



▲再建の進む村

福岡県在住の在留外国人におけるヘルスケア・アクセスに関するCSOの活動・支援実態アンケート調査報告書を公開しました。

NPO法人ISAPHとNGO福岡ネットワークでは、ファイザー株式会社「ファイザープログラム ～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」及び公益財団法人テルモ生命科学振興財団「医療貢献活動助成」よりご支援いただき、福岡県内で外国人支援を実施しているCSO（市民社会組織）の活動・支援実態の調査を実施しました。調査の中では在留外国人の言語や生活といった支援全般だけでなく、公的な保健医療アクセス（ヘルスケア・アクセス）に関する調査も行いました。今回、約1年に渡る調査をまとめたレポートが公開されました。FUNN及びISAPHのHPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください！



報告書のダウンロードはこちら→



FUNN×ISAPH×Just Linkによる、在留外国人を支援する担い手をつなぐプラットフォームづくり事業を開始します！！

ISAPHと実施した調査により、地域で外国人の方を支えようと活動している団体や個人の方が、仲間がない・資金/情報が無い・技術向上の機会がないなど多くの課題に直面していることがわかりました。日本で外国の方が安心して暮らせるように、そのために活動する地域の団体や個人が活動を継続できるようにするために、私たちに何ができるだろうと考えたところ、『まずは活動している団体や個人がお互いに知り合うところから始めよう』という思いに至り、まずは集まることのできる場作りをしようという考えからできたのがこの「多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡（通称：たぶプラ・福岡）」です。

今後の活動としては、福岡県の4地域（福岡、北九州、筑後、筑豊）それぞれで集まりを開催し、まずは近くから小さな規模で繋がりを作ることから初めていこうと考えています（初回は福岡市内にて4/13に開催予定です）。同じ分野での活動を行う団体や個人が、悩みを共有し、そこから課題の解決に繋がられるような場作りを今後実施していく予定です。『自分の暮らしている地域での集まりがあるときは教えてほしい！！』『情報を知りたい！！』という方は「多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡・情報登録フォーム」もぜひご登録ください！！



多文化共生の
担い手がつながる
プラットフォーム福岡



たぶプラ福岡の
サイトはこちら！



食べるこそ被災地復興の力！ AAR Japan能登半島地震緊急支援



2024年1月1日、石川県能登半島を中心に最大震度7を観測する地震が発生し、AAR Japan [難民を助ける会] はすぐに緊急支援を開始しました。これまでに、炊き出し、食料や衛生用品などの物資配付、入浴支援、避難所でのマッサージ提供など、被災地のニーズに沿った活動を行っています。特に支援の届きにくい、障がい者や外国人への支援を行っていることがAARの特徴です。被災者の心身を支える「食べること」への支援として、避難所での炊き出しに加え、被災住民自身による炊き出しの支援、児童養護施設や外国人居住者への食材提供などを通じたサポートをしています。

石川県輪島市のフレンチレストラン『ラトリエ ドゥ ノト』のシェフ池端隼也さんと有志の皆さんによる炊き出しには、連日多くの被災住民の方々が訪れています。AARはこの取り組みを財政面からサポート。特に冷え込みが厳しかったある日のランチは、何種類もの野菜とキノコ、豚肉を煮込んだ「野菜たっぷりシチュー」と炊き立てご飯です。多くの人々が次々に立ち寄り、「元気にしている?」「大丈夫、ありがとね!」と言葉を交わしながら料理を受け取っていました。

同県穴水町の児童養護施設「あすなる学園」には、レタスや小松菜、ブロッコリーなどの野菜、ソーセージやハムなどの加工肉食品を届けました。ここでは22人の子どもたちに一日3食を提供しており、調理担当者は「新鮮な野菜をいただいて、早速サラダにして食べさせてあげたいと思います」。この地域は未だ水道が復旧しておらず、職員の皆さんは苦労しながら子どもたちの日々の成長をサポートしています。

能登町小木漁港では、断水のために漁船に欠かせない製氷ができず、ほとんど出漁できない苦しい状況が続いています。漁協に隣接した宿舎ではインドネシア人の漁業技能実習生28人（いずれも20代男性）が自炊生活を送っていますが、震災後は待機状態にあります。遠くまで買い出しに行けないため、AARはコメや野菜、卵、クーラーボックス、灯油などを届けました。AAR職員がインドネシアで人気のインスタント麺、コーヒー、調味料などを持って宿舎を訪問。在日2年になるヤコブさん（22歳）は「みんなが大好きなインドネシアの味です。私たちのために遠くから持って来てくれて、テレマカシ・バニャック！（本当にありがとう）」と日本語とインドネシア語を交えて笑顔で話しました。AARは時間の経過とともに変化するニーズに合わせ、避難生活を送る皆さんへ物心両面からの支援を続けてまいります。



▲被災住民の有志グループによる「ラトリエ ドゥ ノト」の炊き出し = 石川県輪島市

▲この日のメニューは野菜たっぷりのシチュー

▲児童養護施設「あすなる学園」に食材を提供 = 石川県穴水町

▲インドネシア人の漁業技能実習生に同国産の食材を届けるAAR職員 = 石川県能登町小木漁港

寄付先

クレジットカード・コンビニ払い・銀行振込はHPより：<https://aarjapan.gr.jp/support/onetime/>
郵便振込：口座番号「00100-9-600」 加入者名「特定非営利活動法人 難民を助ける会」



九州地域の国際協力（多文化共生を含む）に関わる団体の ラウンドテーブルを実施しました

JICA 九州・市民参加協力課と（特活）NGO 福岡ネットワーク（FUNN）は協働し、九州地域で国内外の国際協力に関わっている団体と JICA 九州が地域の国際協力をより活性化していくために、課題や取り組みを共有し、協働の可能性を探ることを目的とし、継続してラウンドテーブルを開催しております。

今年度は2024年2月1日に福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみん及びオンラインにて開催いたしました。今回は多文化共生をテーマとして、多文化共生に関わる団体の方を対象とし、オンライン参加も含め20名の方にご参加いただきました。内容としては①FUNNとISAPHが実施した多文化共生に係る調査事業報告と今後の取り組みについて、②JICA が実施している多文化共生の取り組みに関する共有を行った後、参加者とのディスカッションの時間を設けました。

ディスカッションの中ではそれぞれの活動について共有を行い、それぞれの活動する上での悩みやこれからの連携についての議論を行いました。参加した方から今後も開催を希望する声を多く聞くことができ、今後もそれぞれに課題の共有や、連携について探る場を作っていきたいと考えております。



▲ラウンドテーブルの様子



2023年度倶楽部FUNN開催報告

倶楽部FUNNとは、国際協力の現場で活躍する人や様々な国の人から話が聞ける、気軽に参加できる『集いの場』です。今年度は隔月での開催を行い、計6回実施いたしました。対面での開催もできるようになり、久しぶりに講師と参加者が食事をしながらお話を楽しむという機会を作ることができました。最近では、12月に、NTDs Youthの会轟木さんに熱帯病についてお話いただき、2月はFridays For Future福岡の高田さんにCOP28での政策提言活動についてお話いただきました。どちらも普段はあまり知り得ないことについてのお話を聞くことが出来、有意義な時間となりました。今後も皆さまのご参加お待ちしております！

2023年度実施内容

- 4月『 Bangladesh 訪問の旅～首都ダッカ・カラムディ村を旅して～』
- 6月『FIWC九州 フィリピンキャンプ報告』
- 8月『沖縄の今を知ろう』～三上智恵監督「沖縄、再び戦場へ仮」
スピノフ作品（45分）試写会～
- 10月『塩塚のネパール渡航報告2023夏』
- 12月『顧みられない熱帯病（NTDs）と私たちの活動について』
- 2月『衡平な(Equitabke)化石燃料の廃止にむけた訴え』



▲2月の倶楽部FUNNの様子



NGO相談員活動レポート

海外ボランティア・国際協力に関する相談はコチラから→



JICA国際協力推進員会議にてNGO相談員の紹介を行いました

2/28にオンラインにて九州各県のJICAデスク担当者の方が参加する会議にてFUNNスタッフがNGO相談員制度の紹介を行いました。各県の地域で国際活動の推進を行う方へFUNNが今までNGO相談員として活動してきた事例や連携して実施できることをご紹介しました。ご参加頂いた方からは、「今後依頼して地域イベントで出張サービスで出展してもらいたい」「地域の市民団体やNGOと繋がり方について今後参考にさせて頂きたい」というお声を頂きました。



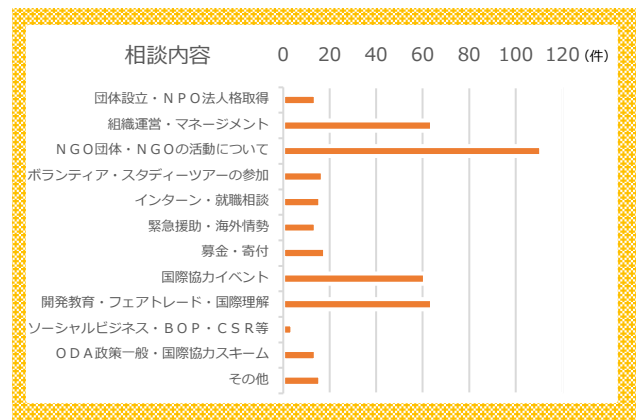
▲オンラインでの相談対応の様子



2023年度NGO相談レポート

今年度もNGO相談員として様々な相談対応を実施いたしました。2月末日時点で413件の相談対応を行い、今年度はコロナも落ち着いたことから対面での相談も増加したように感じられます。

相談内容としてはNGO団体やNGO活動についてがもっとも多く、次いで組織運営・開発教育に関する相談が多くありました。相談者としては、団体を設立したい方や、設立したけれど運営で困っている方など、団体の方からの相談にもっとも多く対応致しました。その他にも学生や先生から直接相談の連絡を頂いたことも印象に残っており、国際協力の入口としての必要性を感じました。



FUNN周辺 “おすすめ” 情報



【チベットを知る会】

「ルンタプロジェクト」活動報告会

ネパールでは、毎年1万人以上の若い女性や子供が人身売買の被害者になっていると言われています。彼女たちの多くはインドの娼館に売られ、救出された人の多くはHIVに感染しているそうです。そのような被害女性の救出、自立支援を現地で行っている中原一博さんが、今回一時帰国し現地での活動の報告を行います。

- ◆日時：4/7（日）18時半～
- ◆会場：福岡市健康づくりサポートセンター視聴覚室A
- ◆会費：無料

【FUNN・ISAPH・Just Link】

たぶプラ福岡・第1回集まり（仮称）

多文化共生の活動に関わっている方・これから関わりたい方、まずは集まってつながりを作りませんか？

- ◆日時：4月13日午後
- ◆場所：福岡市内周辺
- ※詳細はFUNNHPに掲載します。ご確認ください

30周年バースデードネーションご支援の御礼



NGO福岡ネットワークが設立30周年を記念し、実施いたしました「FUNN30周年バースデードネーション」にご協力いただき、誠にありがとうございました！2023年12月31日をもって、本キャンペーンを終了いたしました。

目標金額300,000円に対して、34の個人・団体の皆さまから265,006円のご支援をいただきました。目標に達することはできませんでしたが、改めて多くの方々からの応援や支えを頂いていることを実感する事ができました。ご支援いただいた皆さま、応援いただいた皆さま、本当にありがとうございました！

頂いたご支援は今後のFUNNの運営費用の一部として、九州地域の国際支援活動のネットワーク発展のために活用させていただきます。40周年に向けて、ボーダレスとなりつつある地域の国際協力の課題に更に取り組んでいきますので、これからもFUNNをどうぞよろしくお願い致します！

NGOの活動を
知りたい！

参加するには？
何ができる？

NGO相談 受付中

ご相談おまちしております
メール・電話にてお問い合わせください

特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

FUNN会員募集中！ ※金額は年会費です。詳細はQRコードページまで！

- ・正会員（団体） ¥10,000 ・賛助会員（企業） ¥30,000
- ・賛助会員（個人） ¥6,000 ・通信会員（個人） ¥3,000



寄付の振込先 ※会費振込もこちらの口座まで

【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
カナ名：トクヒ) エヌジーオーフクオカネットワーク
支店番号：208 (赤坂門支店)
口座番号：普通 1641291

【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク
口座番号：01790-7-89478

※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。



編集後記

今年度も様々なことがありましたが、30周年イヤーを無事に終えることができそうです。皆さまご支援ご協力ありがとうございました。4月になったらのんびりとお酒でも飲みながらお花見したいなあと思うこの頃です。（編集：多原）



FUNN正会員団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トゥマンハティふくおか
- * 認定NPO法人難民を助ける会
- * ネパール歯科医療協会(ADCN)
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

FUNN 特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1

小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00

* 日・月・祝・・・休み



092-405-9870



funn@ngofukuoka.net



https://ngofukuoka.net/